

# 漢字教育についての試み

吉村 浩美

(西九州大学短期大学部 生活福祉学科)

(平成 22 年 12 月 1 日受理)

## A Trial about the Kanji Education

Hiromi YOSHIMURA

(*Department of Life and Welfare, Nishikyushu University Junior Collage*)

(Accepted December 1, 2010)

### Abstract

It was pointed out the mistake of the kanji by a training institution. Therefore, I performed kanji education for five years. I perform various things and report them in this report because I showed directionality.

Key words : Kanji education 漢字教育  
mistake of the Kanji 漢字の間違い

## I. はじめに

平成 17 年、学生のレポートを見ると、誤字脱字が大変多くみられた。たとえば「考える」「預ける」などの漢字では一本、線が多くたり足らなかったりという“ほとんど正解だがちょっとした間違い”的漢字や、「本音」を「本根」と書いたり「喜ぶ」を「嬉ぶ」と書くなど、違う漢字が当てはめられていたりすることが多かった。その都度指摘をしたが、それでも実習日誌においても授業中のレポートにおいても誤字脱字が多くみられた。実習指導者との話し合いの場である実習連絡協議会の中でも誤字脱字が多いことについての指摘が多くあっていました。そのため漢字の誤字脱字の改善についての試みをはじめました。もちろん誤字脱字の改善は高等教育としての短期大学の本来の学習目標ではないかもしれない。しかし、現実大きな問題となり、短期大学生の質を問われる尺度の 1 つになっていると感じた。その試みを 5 年間ほど続けてきたので考察を行い報告する。

## II. 研究方法

### 1. 漢字テストの実施とテスト内容の検討

検討期間：平成 17 年度後期～平成 22 年度

対象：生活福祉学科 1 年、2 年、専攻科福祉専攻  
学生

### 2. 漢字テスト結果の比較

#### 1) 1 年生と 2 年生の比較、高校卒業直後の 1 年生と社会人入学の 1 年生の比較

対象：平成 22 年度社会人入学の 1 年生（38 名）  
高校卒業直後の入学の 1 年生（11 名）  
2 年生（26 名）  
専攻科生（19 名）

比較内容：平成 22 年度 6 月～7 月実施分（各 50 間）

#### 2) 同一学生の 1 年後の変化

対象：平成 21 年度入学生（28 名）の 1 年時と  
2 年時の漢字テスト成績の変化

比較内容：平成 21 年度 6 月～7 月実施分

（1 年時 50 間）

平成 22 年 6 月～7 月実施分

（2 年時 50 間）

## III. 実施内容と考察

### 1. 漢字テストの実施とテストの検討

#### ① 平成 17 年度後期 1 年目

（誤字、覚えてほしい漢字の拾いだし及びテスト）

#### ＜実施内容＞

前期に提出されたレポート内の漢字、日誌での誤

字、教科書に出てくる漢字で難しいもの、介護福祉士として著者が学生に覚えておいて欲しいと感じている漢字を 118 個拾い出した。後期より 1 年生のクラス（38 名）に対し 118 個の漢字テスト（表 1）を行うことを試みた。わからなかった漢字はその場で調べさせた。

#### ＜考察＞

14 回ほど、授業の合間にテストを一通りしただけで終わり、毎回時間を使った割にはその後のレポートの誤字が減った感触はなく、後期の実習連絡協議会でも相変わらず実習指導者から誤字脱字の指摘があった。

#### ② 平成 18 年度 2 年目

（間違った漢字、知らなかった漢字のみ再テストを行い、正解するまで繰り返す）

#### ＜実施内容＞

前年度漢字テストを行った 118 個に加え、平成 17 年度後期のレポートや実習日誌で確認した学生の誤字 90 個も加え 208 個の漢字テスト（表 2）を 1 年生 2 クラス（45 名）に対し行った。テストの 2 回目からは正解した漢字を問題から外し、個人個人の間違った漢字のみを残し、次回は間違った漢字のみのテストを行うことを 10 回ほど繰り返した。一人ひとりの解く速度や正解状況はまちまちであるため、208 個を一通り終了するまでの回数に大きな差が出た。

#### ＜考察＞

次の授業までに誤字をチェックし、正解したものは外し、間違ったもの、書けなかったもの、まだ書いていないものを全員分（45 名）個別に準備する労力は大きかった。その割にその後のレポートを見ても誤字が減った実感はなかった。この年の実習連絡協議会においても、誤字脱字の指摘を受けた。

#### ③ 平成 19 年度 3 年目

（覚えてほしい漢字のプリントを渡しらかじめ覚えさせてテストを行う）

#### ＜実施内容＞

1 年生（38 名）、2 年生（45 名）に、覚えてほしい漢字のプリントを 2 枚（208 間）をあらかじめ渡し覚えるように告げた。授業開始時 5 ～ 10 分ほど使い漢字テストを行った。

#### ＜考察＞

あらかじめ渡しておいても、覚える学生と覚えようとしない学生があり全員の漢字の改善に役立つようには感じなかった。

間違った漢字はその場で何回か書いてしっかりと覚えさせるなど強制的に覚えさせる努力を行わないと全員の漢字の知識の向上は見込めないのではないかと感じた。

#### ④ 平成 20 年度 4 年目

(間違った漢字を何回か書かせて覚えさせる)

##### <実施内容>

前年同様、1年生（22名）2年生（38名）専攻科生（11名）に覚えさせてほしい漢字のプリント2枚（208問）をあらかじめ渡し覚えるように告げた。そして漢字のテストプリントに、間違った漢字を書いて練習するスペースを設けた（A4、4枚）。授業時、毎回5分程漢字のテストを行い、自分で採点してもらい、間違っていた漢字を4回ずつ書いてもらった。学期末の教科の試験時にその208問の中から5問程の漢字の試験をすると伝え、覚えるように促した。

##### <考察>

208問を1通り行うのがやっとであった。前回分の残りをしてもらうのに、書きかけの本人分のプリントを配るのにも手間を要した。学期末に行った試験の漢字は、よく勉強し満点の学生もいれば、半分ほどしか書いていない学生も有、効果があったのか疑問には思った。半期で1回出来るかどうかでは、焼け石に水のような感じがした。しかし、実習連絡協議会では誤字に対する意見は特に出なかった。多少とも続けたことで何らかの変化があったのか。実習時に漢字のプリントを持参し時折確認していた学生もいたようではある。

#### ⑤ 平成 21 年度 5 年目

(覚えてほしい漢字の選び出し)

##### <実施内容>

208問中、学生がよく間違えているものはどの漢字か、今までの4年間の答案を集計し、多く間違っているものと、介護福祉士になるために覚えていて欲しいと思う漢字を選び出し、間違う人がやや少ないものは外し、A4の用紙一枚に入る189間にした。

1年生（30名）2年生（22名）専攻科生（16名）に先にA4の用紙に189問（表3）を書いたものを渡し覚えてもらう。毎回テストを行い自分で採点して提出させ、間違っている漢字は書き直してもらった。

また、教科の小テスト時、漢字の小テストも加えた。学期末の試験時にも特に覚えてほしかった漢字を抜き打ちで数問テストしてみた。

##### <考察>

学期末に抜き打ちでテストした漢字の出来は6割程度思ったより書けていない印象を受けた。実習連絡協議会での誤字に関する指摘は特になかった。しかし、実習日誌を見てみると誤字はまだ多く存在しているように見えた。誤字はあるが実習連絡協議会で指摘するほどひどくはないというところではないかとは感じた。また、以前からではあるが実習日誌やレポートに誤字があることを指摘しても本人はすぐに見つけ出せないことが多か

った。誤字であることに気付いていないし、指摘すると「長年間違っていないと思い込んで書いていた」という事がよくあった。知らない漢字やあやふやな漢字は辞書を引いたり他の実習生に聞いたり携帯で調べて書くが、自分で知っていると思い込んでいる漢字は自信を持って誤字を書き、調べることはしない。漢字テストで良い成績をとるのが目標ではなく、記録物に誤字を書かないことを目標にするとするならば、この間違っていないと思い込んでいる漢字を無くしていくことが必要であると感じた。

#### ⑥ 平成 22 年度 前期 6 年目

(出席確認時間の利用・誤字を自覚させる取り組み)

##### <実施内容>

1年生（50名）2年生（28名）専攻科（19名）に対して実施した。授業の初めの出席確認前に漢字テストのプリント（189問）を配布し、出席を確認している時間に10問ずつテストを行なった。自分で採点し、間違った分を書き直して提出させた。当日または次回までに書き直しの分について点検を行い、間違っていないと思い込んで誤字であることに気付いていない漢字にチェックをし、次回“思い込みの漢字”として再度書き直してもらった。学生はそれを受け取り、「ああそうだった。」とうっかり間違えた場合と「今までずっと正解だと思い込んでいた、知らなかった。」と新たに自覚できる場合があった。また、この期間中に提出したレポート等で間違っていた漢字は他の人も間違って覚えている可能性もあるので次の時間の漢字テストに追加し裏面に書いてもらいう同じようにチェックした。

##### <考察>

長年、間違えて覚えてしまっていた漢字を一つでもきちんと自覚し覚えなおすことができればそれだけでも漢字テストをやった甲斐があると感じた。多くの知らない漢字を覚えるよりもこの方法が誤字を書かなくなることには効果があるのではないかと感じた。実習連絡協議会では特に誤字についての指摘はなかった。平成21年度からは実習のカリキュラムが変わり実習施設が新たに増えたことや、カリキュラムの話に意識が多少傾いていることも影響しているとは思う。また、近年社会人入学の学生が増えたことも実習連絡協議会での指摘がなくなったことと影響している可能性がある。

## 2. 漢字テスト結果の比較

### 1) 1年生と2年生の比較、高校卒業直後の1年生と社会人入学の1年生の比較

漢字の知識と正しいと思い込んでいた漢字について平成22年度前期の結果を社会人入学の1年生と高校卒業直後入学してきた1年生、2年生、専攻科生で比較し

てみた（平成 22 年 6 月～7 月に行った 5 回分の 50 問を比較）。2 年目である 2 年生は専攻科生や 1 年生の社会人、新卒者と比較し間違った漢字の数が半分以下であった。つまり、社会人が増えたことよりも、漢字テストを受ける等本学でごした何らかのことが、誤字を減らしたと考えられる。

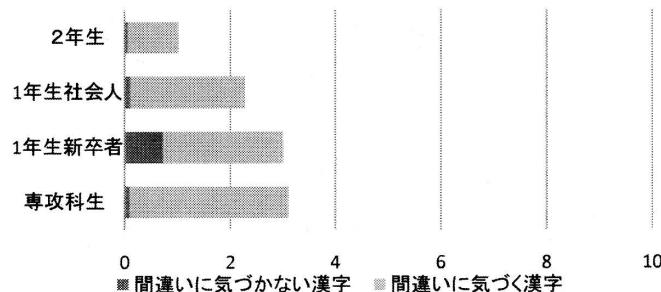


図 1 2 年生と 1 年生（新卒者、社会人）、専攻科生との比較（10 問当たりの間違い漢字数の平均）

## 2) 同一学生の 1 年後の変化

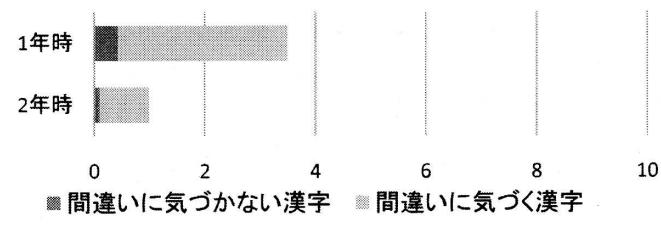


図 2 2 年時と 1 年時との比較  
(10 問当たりの間違い漢字数の平均)

平成 22 年度の 2 年生の漢字テストの結果と、この学生達の 1 年生時の漢字テスト（平成 21 年 6 ～7 月）の結果を比較してみると間違いに気づく漢字も間違いに気づかない漢字も 3 分の 1 以下に減少している。続けてきた事が多少とも効果として表れたと考えられる。

## IV. ま と め

誤字脱字が多い理由は漢字を知らないことが原因で、ある程度書いて覚えることで解決するのではないかと考えていた。しかし、漢字のテストをするだけでは本人たちはさほど危機感もなく、与えられた漢字を淡々と書いて「正解した」、「間違っていた」という結果の評価で終わる事が多い。こちらが提示した漢字は書ける人は増えてもそれ以外の漢字での誤字脱字が後を絶たない状態であった。そんなに多く漢字教育に時間を割けない状況で効率的にどうしたら誤字脱字が減るのか。実習先では分からぬ漢字は辞書か携帯で調べて書いているにもかかわらず簡単な漢字も含め間違える。これは、その漢字があつてていると思い込んで調べないからであろう。間違って覚えていて、間違っていることに気付けていないためであると考えられる。これを改善するためには合っていると思い込んで覚えているものを見つけ指摘し気付かせることが必要である。手間はかかるが、漢字テストを行い、自分で採点させ、その上で教員等がチェックし本人が正解だと思い込んでしまっている誤字を探すことが確実な改善につながるようであった。全体に対し間違って覚えている漢字があるといつても自分のことと捉えきれない（正解だと思っているから）。自分が個別に指摘されて初めて気づく。間違っているものがあると指摘されてもどこが間違っているか気付かないことが多い。社会人も思い込みが多く、今までずっと間違って覚えていたとよく言う。やっと長年間違って覚えていたことに気づき「ありがとうございます」と言ってくれた学生もいる。

今後は、漢字テストの内容を再度検討し介護福祉士としてさらに必要性の高い漢字の内容にする等改善し、また、他の一般教養についても徐々に取り入れていこうと考えている。

<参考資料>

表1 (平成17年度 118個)

あずける	預ける	したしみ	親しみ	ひとをたずねる	人を訪ねる
あそぶ	遊ぶ	じっかん	実感	ひょうか	評価
あなたのそば	あなたの傍	しゃふつ	煮沸	ふつう	普通
あふれる	溢れる	しゅうちゅう	集中	ふりかえる	振り返る
あらそい	争い	じゅうふく	重複	べんきょう	勉強
あらためて	改めて	じゅぎょう	授業	ほんね	本音
あんき	暗記	しゅんかん	瞬間	まかせる	任せる
いじする	維持する	しょうさいについて	詳細について	まざらわす	紛わす・紛らわす
いっしょうけんめい	一生懸命	しょうすうのひと	少数の人	まずしい	貧しい
いま	今	しんけん	真剣	まちがい	間違い
うえる	飢える	しんしにふりかえる	真摯に振り返る	みとめられる	認められる
えらい人のでんき	偉い人の伝記	すいこうする	遂行する	むかえる	迎える
えんがわ	縁側	すばやい	素早い	むしょうで行う	無償
おおぜい	大勢	すばらしい	素晴らしい	むつかしい	難しい
おそろしい	恐ろしい	ぜいたく	贅沢	めいしよう	名称
おれ	俺	せいと	生徒	めったに	滅多に
おんけい	恩恵	せつとくりよく	説得力	ものがゆたか	物が豊か
かいしゃにつとめる	会社に勤める	そうだん	相談	やとう	雇う
かくす	隠す	そまつ	粗末	ゆうふく	裕福
かせぐ	稼ぐ	たいへん	大変	ゆだねる	委ねる
かんがえる	考える	たくさん	沢山	よぎなくされる	余儀なくされる
かんしゃする	感謝する	だめ	駄目	よろこぶ	喜ぶ
かんしんがわく	関心が湧く	ためになる	為になる	りかい	理解
かんすること	関すること	だんな	旦那	わたしたち	私達
かんそう	感想	ちがう	違う		
かんどうする	感動する	ちようふく	重複		
がんばる	頑張る	つくす	尽くす		
きばんのうえに	基盤の上に	つづける	続ける		
くいがない	悔いがない	つらぬく	貫く		
けいたい	携帯	てあつい	手厚い		
けっか	結果	てをさしのべる	手を差し延べる・伸べる		
けっこう	結構	でんき	伝記		
けつだんりょく	決断力	とくになし	特になし		
げんさい	現在	とつぜん	突然		
げんみつにおこなう	厳密に行う	とまどう	戸惑う		
ごういん	強引	ないもの	無い物		
こうかいする	後悔する	なっとく	納得		
こうぎ	講義	なにげなく	何気なく		
こうどうにうつす	行動に移す	にがて	苦手		
こんらん	混乱	はきする	破棄する		
ざいさんをりやくだつする	財産を略奪する	はじめて	初めて		
さいしょ	最初	はそん	破損		
さしみ	刺身	はんぱいする	販売		
さびしい	寂しい	ひあい	悲哀		
ざんこく	残酷	ひっすじょうけん	必須条件		
しかる	叱る	ひとにたずねる	人に尋ねる		
しづか	静か	ひとをたすける	人を助ける		

表2 (平成18年度 208個)

あいさつ	挨拶	げり	下痢	せっとくりょく	説得力	はいけい	背景
あずける	預ける	けんおん	検温	せつめい	説明	はいせつ	排泄
あそぶ	遊ぶ	げんざい	現在	せんたくし	選択肢	はいぜん	配膳
あなたのそば	あなたの傍	げんみつにおこなう	厳密に行う	せんたくし	洗濯	はきする	破棄する
あふれる	溢れる	ごういん	強引	せんもん	専門	はけん	派遣
あらそい	争い	こうかいする	後悔する	そうじ	掃除	はじめて	初めて
あらためて	改めて	こうぎ	講義	そうだん	相談	はそん	破損
あんき	暗記	こうしゅく	拘縮	そまつ	粗末	はんぱいする	販売
いじする	維持する	こうどうにうつす	行動に移す	そんげん	尊厳	ひあい	悲哀
いしゆく	萎縮	ごえん	誤嚥	たいへん	大変	ひざのかんせつ	膝の関節
いっしょうけんめい	一生懸命	こつせつ	骨折	たくさん	沢山	ひじ	肘
いま	今	こどく	孤独	だめ	駄目	ひぞう	脾臓
うえる	飢える	こんらん	混乱	ためになる	為になる	ひっすじょうけん	必須条件
うれしい	嬉しい	さいさんをりやくだつする	財産を略奪する	だんな	旦那	ひとにたずねる	人に尋ねる
えらい人のでんき	偉い人の伝記	さいしょ	最初	だんぼう	暖房	ひとをたすける	人を助ける
えんがわ	縁側	さしみ	刺身	ちがう	違う	ひとをたずねる	人を訪ねる
おおぜい	大勢	さびしい	寂しい	ちほう	痴呆	ひょうか	評価
おそろしい	恐ろしい	ざんこく	残酷	ちようしょい	調子よい	ふくし	福祉
おれ	俺	しえん	支援	ちようどよい	丁度良い	ふじゆう	不自由
おんけい	恩恵	しかる	叱る	ちようふく	重複	ふつう	普通
がいかぶ	外踝部	しこうひん	嗜好品	つかれた	疲れた	ふとん	布団
かいしゃにつとめる	会社に勤める	じこしょうかい	自己紹介	つくす	尽くす	ふりかえる	振り返る
かかと	踵	しずか	静か	つづける	続ける	べんきょう	勉強
かくす	隠す	しせつ	施設	つらぬく	貫く	べんぴ	便秘
かぜがなおる	風邪が治る	したしみ	親しみ	てあつい	手厚い	ぼうこう	膀胱
かせぐ	稼ぐ	じっかん	実感	ていねい	丁寧	ほうもんかんご	訪問看護
かたづけ	片付け	しゃふつ	煮沸	てをさしのべる	手を差し延べる・伸べる	ほんね	本音
かんがえる	考える	しゅうちしん	羞恥心	でんき	伝記	まかせる	任せる
かんごし	看護師	しゅうちゅう	集中	てんとう	転倒	まぎらわす	紛わす・紛らわす
かんさつ	観察	じゅうふく	重複	でんぶ	臀部	まずしい	貧しい
かんしゃする	感謝する	じゅぎょう	授業	とうつう	疼痛	まちがい	間違い
かんしんがわく	関心が湧く	しゅみ	趣味	とうようびょう	糖尿病	まひ	麻痺
かんすること	関すること	しゅんかん	瞬間	とくになし	特になし	みとめられる	認められる
かんそう	感想	じゅんび	準備	とつぜん	突然	みとる	看取る
かんどうする	感動する	じょうがいしや	障害者	とまどう	戸惑う	むかえる	迎える
がんばる	頑張る	じょうさいについて	詳細について	ないもの	無い物	むしょうで行う	無償
きげん	機嫌	じょうすうのひと	少数の人	なつとく	納得	むつかしい	難しい
きばんのうえに	基盤の上に	じょうだく	承諾	なにげなく	何気なく	めいしよう	名称
ぎやくたい	虐待	しょくじをぬく	食事を抜く	にがて	苦手	めったに	滅多に
きゅうけい	休憩	じょくそう	褥瘡	にちじょうせいかつ	日常生活	ものがゆたか	物が豊か
きよしつ	居室	しんけん	真剣	にんちしよう	認知症	やとう	雇う
きょしょくじょう	拒食症	しんしにふりかえる	真摯に振り返る	ねつく	寝付く	ゆうふく	裕福
くいがない	悔いがない	しんたいこうそく	身体拘束	ねむくなる	眠くなる	ゆだねる	委ねる
くるぶし	踝	すいこうする	遂行する	ねむたい	眠たい	ようごする	擁護する
くるまいす	車椅子	すいじ	炊事	ねる	寝る	よぎなくされる	余儀なくされる
くんれん	訓練	すいぶんほきゅう	水分補給	ねんざ	捻挫	よつきゅう	欲求
けいたい	携帯	すばやい	素早い	のうけっせん	脳血栓	よろこぶ	喜ぶ
けいちょう	傾聴	すばらしい	素晴らしい	のうこうそく	脳梗塞	りかい	理解
けいぶ	頸部	ぜいたく	贅沢	のうそくせん	脳塞栓	りょうり	料理
けっか	結果	せいと	生徒	のうそっちゅう	脳卒中	れいぎ	礼儀
けっこう	結構	せいりせいとん	生理整頓	はあく	把握	れんけい	連携
けつだんりょく	決断力	せつきよくてき	積極的	はいかい	徘徊	わたしたち	私達

表3 (平成21年度～ 189個)

あいさつ	挨拶	けっか	結果	せつきよくてき	積極的	はいけい	背景
あずける	預ける	けっこう	結構	せとくりょく	説得力	はいせつ	排泄
あなたのそば	あなたの傍	けつだんりょく	決断力	せつめい	説明	はいぜん	配膳
あふれる	溢れる	げり	下痢	せんたくし	選択肢	はきする	破棄する
あらためて	改めて	けんおん	検温	せんたく	洗濯	はけん	派遣
あんき	暗記	げんざい	現在	せんもん	専門	はそん	破損
いじする	維持する	げんみつにおこなう	厳密に行う	そうじ	掃除	はんぱいする	販売
いしゅく	萎縮	ごういん	強引	そうだん	相談	ひあい	悲哀
いっしうけんめい	一生懸命	こうかいする	後悔する	そまつ	粗末	ひざのかんせつ	膝の関節
うえる	飢える	こうぎ	講義	そんげん	尊厳	ひじ	肘
うれしい	嬉しい	こうしゅく	拘縮	たいへん	大変	ひぞう	脾臓
えらい人のでんき	偉い人の伝記	こうもん	肛門	たくさん	沢山	ひっすじょうけん	必須条件
えんがわ	縁側	ごえん	誤嚥	だめ	駄目	ひとにたずねる	人に尋ねる
おおぜい	大勢	こっせつ	骨折	ためになる	為になる	ひとをたすける	人を助ける
おそろしい	恐ろしい	こどく	孤独	だんな	旦那	ひとをたずねる	人を訪ねる
おれ	俺	こんらん	混乱	だんぼう	暖房	ふりかえる	振り返る
おんけい	恩恵	さいしょ	最初	ちほう	痴呆	ふんもん	噴門
がいかぶ	外踝部	さしみ	刺身	ちようしょい	調子よい	べんきょう	勉強
かいしゃにつとめる	会社に勤める	さびしい	寂しい	ちようどよい	丁度良い	べんび	便秘
かいせん	疥癬	ざんこく	残酷	ちようふく	重複	ぼうこう	膀胱
かかと	踵	しえん	支援	つかれた	疲れた	ほうもんかんご	訪問看護
かくす	隠す	しかる	叱る	つくす	尽くす	まかせる	任せる
かぜがなおる	風邪が治る	しこうひん	嗜好品	つづける	続ける	まぎらわす	紛わす・紛らわす
かせぐ	稼ぐ	じこしょうかい	自己紹介	つらぬく	貫く	まずしい	貧しい
かたづける	片付ける	しせつ	施設	てあつい	手厚い	まちがい	間違い
かんがえる	考える	じっかん	実感	ていねい	丁寧	まひ	麻痺
かんごし	看護師	しゃふつ	煮沸	てをさしのべる	手を差し延べる・伸べる	みとめられる	認められる
かんさつ	観察	しゅうちしん	羞恥心	てんとう	転倒	みとる	看取る
かんしゃする	感謝する	じゅうふく	重複	でんぶ	臀部・殿部	むかえる	迎える
かんしんがわく	関心が湧く	じゅぎょう	授業	とうつう	疼痛	むしょうで行う	無償
～にかんすること	～に関するこ	しゅみ	趣味	とうようびょう	糖尿病	むつかしい	難しい
かんそうをいう	感想を言う	しゅんかん	瞬間	とつぜん	突然	めいしよう	名称
かんどうする	感動する	じゅんび	準備	とまどう	戸惑う	めったに	滅多に
がんばる	頑張る	しょうさいについて	詳細について	なっとく	納得	ものがゆたか	物が豊か
きげんがわるい	機嫌が悪い	しょうだく	承諾	なにげなく	何気なく	やとう	雇う
きばんのうえに	基盤の上に	しょくじをぬく	食事を抜く	にがて	苦手	ゆうふく	裕福
ぎやくたい	虐待	じょくそう	褥瘡	にんちしょう	認知症	ゆだねる	委ねる
きゅうけい	休憩	しんけん	真剣	ねつく	寝付く	ようごする	擁護する
きょうさく	狭窄	しんたいこうそく	身体拘束	ねむくなる	眠くなる	よぎなくされる	余儀なくされる
きょしつ	居室	すいこうする	遂行する	ねむたい	眠たい	よつきゅう	欲求
きょしょくじょう	拒食症	すいじ	炊事	ねる	寝る	よろこぶ	喜ぶ
くいがない	悔いがない	すいぞう	脾臓	ねんざ	捻挫	りょうり	料理
くるぶし	踝	すいぶんほきゅう	水分補給	のうけつせん	脳血栓	れいぎ	礼儀
くるまいす	車椅子	すばやい	素早い	のうこうそく	脳梗塞	れんけい	連携
くんれん	訓練	すばらしい	素晴らしい	のうそくせん	脳塞栓	わたしたち	私達
けいたい	携帯	ぜいたく	贅沢	のうそっちゅう	脳卒中		
けいちょう	傾聴	せいと	生徒	はあく	把握		
けいぶ	頸部	せいりせいとん	整理整頓	はいかい	徘徊		